

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価 (3月29日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>(1) 有意義な高校生活を送ることができるよう教育課程編成に工夫を凝らし、自ら学ぶ態度と、基礎学力の習得及び希望進路の実現に向けた学力向上に取り組む。</p> <p>(2) 生徒の『主体的・対話的で深い学び』につながる授業改善に取り組む。</p>	<p>(1) 新しい学習指導要領に向けて、さらなる学習意欲の向上・基礎学力の充実のための仕組みづくりをめざす。</p> <p>(2) 組織的な授業改善により、授業の質の向上を図る。</p>	<p>(1) 『学び直し』についての仕組みを見直しつつ、新しい教育課程の編成を行う。</p> <p>(2) 具体のテーマを定め、チームで授業づくりを行い、学校全体で職員研修を行う。</p>	<p>(1) 『学び直し』を中心とした、新学習指導要領に沿った教育課程編成を行うことができたか。</p> <p>(2) 年間を通して、生徒の『主体的・対話的で深い学び』を意識した授業づくりが行われたか。生徒の学習意欲が向上し、学力向上の実感・学力向上に向けた意識が生じたか。</p>	<p>(1) 育てたい生徒像を再検討することで『学び直し』の内容を見直し、新しい教育課程の編成を行った。</p> <p>(2) 教科を超えたチームによる組織的授業改善の研究により、『生徒が主体となる授業づくり』に取り組んだ。また、そのための工夫の1つとして、Cromebookやプロジェクターを用いた生徒の参加型授業づくりを模索した。</p>	<p>(1) 『学び直し』の内容の見直しに伴う具体的な教材開発や授業運営・評価方法についての検討を次年度に行う。</p> <p>(2) Cromebookやプロジェクターの活用を通して生徒が主体的に活動する授業づくりにつながる面はあるが、深い思考を妨げない授業の在り方やそのための問いかけの仕方等を絶えず意識する必要がある。</p>	<p>・一人ひとりの学力の状況が異なる中で個々の課題に対応した指導が行われ生徒のやる気を引き出しているところは評価できる。</p> <p>・授業を見学したが生徒は非常に落ち着いて学習に取り組んでいた。</p> <p>・ICT 機器利用で授業中生徒が使うプリントと同じものが大きく映し出されることで取り組みやすく生徒の評価も高い。</p> <p>・研究授業を参観し、授業によってはプリントの穴埋めになっている。生徒自らが気づく(発見する)授業の工夫があるとよい。</p> <p>・令和3年度の高3の大学受験から「探究型学習」の成果を評価項目にあげている大学がでてきている。身近な物事にテーマを見つけて興味関心のある探究学習の取り組みに期待したい。</p>	<p>(1) ・育てたい生徒像を再検討し、『学び直し』を中心とした教育課程について学校全体の意見を反映し編成することができた。</p> <p>・『学び直し』科目および「総合的な探究の時間」の教材、授業運営、評価方法を検討する必要がある。</p> <p>(2) 学校で統一したテーマを設け教科を超えたチームによる授業づくりを行うことができた。</p> <p>・授業に ICT 機器を用いることにより生徒が主体的に取り組む場面が増えた。</p> <p>・生徒の深い思考を妨げないよう ICT 機器の使い方を工夫する必要がある。</p> <p>・学力観、指導方法研究と実践を行う必要がある。</p>	<p>(1) ・グループを超えたワーキングチームを立ち上げ、クリエイティブスクールの学びにふさわしい取り組みとなるよう『学び直し』科目の教材、授業運営、評価方法を検討する。</p> <p>・「総合的な探究の時間」の内容について探究的な学びとなるよう構築する。</p> <p>(2) ・学校全体で、授業における ICT 機器の効果的な使い方を研究する。</p> <p>・生徒自らが気づく双方向的な授業実践を推進し、学習意欲の向上を図り、深い思考力を育成する。</p> <p>・生徒のキャリア意識形成につながるような探究型学習を模索する。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>(1) 規範意識・社会性を涵養し、自らの判断で社会的な行動をとれる生徒の育成を目指す。</p> <p>(2) 個に応じた生徒指導・支援を充実させる。</p>	<p>(1) 集団指導および個別の指導により、社会のマナーやルールを守り、公共の場で常識的な振る舞いができる生徒を育成する。</p> <p>(2) 生徒の背景も含めた理解に努め、それらに合った支援策を実践していく。</p>	<p>(1) ・SSE (ソーシャルスキルエデュケーション) の授業でのエクササイズ体験等により、自他を尊重する気持ちと社会性を涵養する。</p> <p>・様々な場面で、公共マナーについて呼びかける。</p> <p>・学年指導、特別指導において個々の問題に応じた指導を心がける。</p> <p>(2) 課題を抱える生徒の支援をチームとして対応し、関係職員間で生徒の個別理解と情報共有を行う。</p>	<p>(1) ・効果的に SSE を実施できたか。また、SSE の実践を通じて職員理解が深まったか。</p> <p>・様々な場面で、公共マナーについて呼びかけたか。</p> <p>・学年指導、特別指導において個々の問題に応じた指導ができたか。</p> <p>(2) ・生徒が抱える課題を関係職員で情報共有できたか。</p> <p>・支援をチームとして行うことができたか。</p>	<p>(1) ・休校のため1学期は実施できなかったが、2、3学期に SSE を実施した。また、職員向けの SSE 研修会を実施した。</p> <p>・HR、集会(リモート)などを通じて公共マナーを守ることの大切さを呼びかけた。</p> <p>・学年指導、特別指導において個々の問題に応じた指導をした。</p> <p>(2) ・学年会等での生徒情報を教育相談コーディネーター会議や職員会議で共有し、支援について検討した。</p> <p>・困難事例等ケース会議を行い外部資源を含めた支援を行った。</p>	<p>(1) ・一部の職員生徒に、SSE に対する理解が得られていない。今後も理解を深める機会を作りたい</p> <p>・今年度の経験を活かして、リモートによる集会、講演会の方法をさらに追求していきたい。</p> <p>・特別指導等の在り方について、絶えず検討していきたい</p> <p>(2) ・LGBT の理解が職員間で深まらず、支援に至らない事例があった。</p> <p>・支援を勝手にやっていると捉える職員もおり一般化の困難さを感じられた。</p>	<p>・SSE を実践していることで、社会性や主体性を大切にしたい授業展開が可能だと思う。</p> <p>・SSE の実践を課題解決能力の育成につなげてほしい。</p> <p>・登下校の様子を見ていると、とても落ち着いている。指導に頭が下がる思いである。</p>	<p>(1) ・SSE に関しては3年間を通じた12回のプログラムを実施しているが今年度は休校のため回数が減った。活動の中で教員が体験談を交えるなど創意工夫を行いながら実施し、生徒の自他を尊重する気持ちを育んだ。プログラムの素材を提供し担任が学級の状況に応じて SSE を実施できるよう促した。</p> <p>・10月には講師による職員対象研修会を行い理解を深めた。一部の職員生徒に SSE に対する理解が得られていない。</p> <p>・生徒に、HR、集会(リモート)などを通じて公共マナーについて呼びかけたが今後も継続して注意喚起する必要がある。</p> <p>(2) ・生徒情報を教育相談コーディネーター会議で共有するだけでなく毎時職員会議で行う全職員で共有することができた。</p> <p>・SC、SSW、多文化教育コーディネーター等多種職を活用して生徒を支援することができた。</p> <p>・LGBT の理解が職員間で深まらず支援に至らない事例があった。</p>	<p>(1) ・SSE のねらいやファシリテーターとしての方法を教員が周知するための事前準備として校内での研修会を充実し SSE のためのスキルアップを図る。</p> <p>・SSE の実践を授業展開においても活用し主体性を引き出したり、課題解決能力の育成につなげる。</p> <p>・今後も様々な場面で、公共マナーの遵守について具体的な例を挙げて継続的に呼びかけていく。</p> <p>(2) ・年度当初の全職員による生徒情報交換会及び職員会議での生徒情報の時間を確保する。</p> <p>・機会を捉えて、生徒が抱える課題を関係職員で情報共有する。</p> <p>・LGBT の理解を深めるため職員研修会を行う。</p> <p>・生徒への支援を協働チームとして図ることのできるシステムを構築する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策 定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月29日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方 策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	(1)3年間を見通した計画的な進路指導の実践により、生徒一人ひとりの進路希望の実現を支援する。 (2)生徒活動の自主性・主体性を重視することで、生徒が自律的に自立できることをめざす。	(1)生徒の成長段階に合わせた三年間を見通した計画を作成する。 (2)生徒の自尊感情を養い、自己肯定感を高められる取組みを計画する。	(1)各学年の成長段階に応じたガイダンスや講演会等を計画する。 (2)クラスの親睦と帰属意識をもたせるための行事としてクラス交流会を計画する。	(1)適切な時期にガイダンスや講演会等を計画できたか。 (2)クラス交流会を計画・実施し、生徒の親睦を図り、帰属意識を高められたか。	(1)新型コロナウイルス感染症の影響により、急な変更や中止が多く、計画通りに行うことができなかった。 (2)11月に学年ごとにクラス交流会をドッチビー大会として実施、クラス及び学年間の親睦を図ることができた。	(1)コロナ禍の状況で行えるガイダンスや講演会のやり方を、オンライン利用を含め模索している。 (2)行事に対する生徒の反応はとも良かったので、運営を教員主導から生徒主体の活動となるようリーダーシップを育成する。	・ガイダンスや講演会の時期は適切だったと思う。生徒の希望でいろいろなガイダンスに出席できるのはありがたい。 ・コロナ禍で部活動や行事が制限されたが、できる限りまでやってもらい、感謝している。	(1)・新型コロナウイルス感染症の影響により、ガイダンス等の時期がずれてしまったが、3年生全員を対象とした面接練習を全職員で行い、進路への意識を高めた。 (2)・新型コロナウイルス感染症の影響により、文化祭など中止になったが、11月に学年ごとにクラス交流会を実施し、クラス及び学年間の親睦を図ることができた。 ・行事運営について生徒主体の活動となるには課題を残した。	(1)・コロナ禍でのガイダンスや講演会のやり方を、オンライン利用を含め模索すると共に、進路実現の意欲が継続するように指導計画を工夫する。 (2)・引き続きコロナ禍で実施可能な行事を計画し、生徒の帰属意識を持たせる。 ・行事運営の一部を生徒に任せるなど生徒の主体性を引き出しリーダーシップを育成する。
4	地域等との協働	学校と地域相互の教育力を生かし、地域と連携した学校づくりを推進する。	(1)広報活動により、本校の特色および活動内容を周知する。 (2)地域交流を通して、本校の教育力を地域に還元する。	(1)学校HPで本校の活動を発信し、広報活動の充実を図る。 (2)釜利谷サポートチームや生徒会、部活動の生徒と連携し、地域との交流を充実させる。	(1)行事ごとに新たな情報を学校HPに掲載できたか。 (2)地域に向けたボランティア活動等を複数回実施できたか。	(1)学校HPの更新作業に伴い学校情報を整理して提供した。 (2)新型コロナウイルス感染症の影響により、地域に向けてのボランティア活動はできなかった。	(1)掲載するタイミングが遅れることがあった。学校HPの充実を図り更なる学校情報の提供に努める。 (2)サポートチームの勧誘に力を入れ、ボランティアの活性化を図る。	・地域との結びつきや協働から、職業や社会の在り方にも関心を持ってもらえたらよい。 ・子どもが下校時けがをした時、地域の方が協力して病院まで運んでくれてありがたかった。	(1)学校HPの項目を整理し、行事ごとに記事や写真を掲載し、保護者にも好評であった。学校紹介として情報発信を行っている。 (2)新型コロナウイルスの影響により、地域に向けてのボランティア活動はできなかったがアンケートによるとボランティアに参加したい生徒は48%おり、地域との連携・協働についてコロナ禍における方法を追求していく。	(1)各グループにHP担当を配置したり、期限を決めるなどして、タイムリーな掲載に努める。生徒が自分たちの活動に自信が持てるよう広くPRする。 (2)生徒によるサポートチームの勧誘に力を入れ、生徒会、部活動の生徒と連携し、地域でできる活動を検討し、ボランティアの活性化を図る。
5	学校管理 学校運営	すべての職員が職場環境を含めた様々な変化に柔軟に対応し、積極的に取り組める持続可能な組織づくりをすすめていく。	(1)安全管理や教育環境整備を計画的に行う。 (2)生徒の命と健康にかかわる安全、安心に対する意識の向上を図り、防災対策の充実に努める。	(1)施設の整備を順次進め、学校環境(ハード面)での安全確保を目指していく。あわせて環境美化に取り組む。 (2)安全に関する情報を保護者に学校HP等で迅速に発信すると共に、大規模地震(南海トラフ等)を想定した具体的・実践的な防災訓練を実施する。併せて横浜市との協定による避難時運営に関して職員との共通理解を図る。	(1)校内巡視を定期的に行い、教育環境の維持管理につとめ、整備をすすめることができたか。 (2)・安全に関する情報を保護者に迅速に発信することができたか。 ・大規模地震を想定した具体的・実践的な防災訓練ができたか。 ・生徒へのDIG訓練の実施対象が広がったか。	(1)同窓会及びPTAのご協力により全教室のプロジェクトを設置、また国庫補助により加湿器の設置を行い新型コロナウイルスの感染防止を軸に教育環境の整備に努めた。 (2)臨時休校、授業時間の変更、分散登校、新型コロナウイルス感染症に伴う休校など緊急を要する連絡が多かったこともあり、HPやGoogleクラスルームの充実が図られた。また、コロナ禍で学年をわけて防災訓練を実施することができた。DIGは昨年度より生徒の参加数を増やすことができた。	(1)新型コロナウイルス感染症防止のさらなる生徒への徹底と、教室環境の整備に努めている。 (2)いろいろな情報を整理して的確に伝達する必要がある。 防災においては、コロナ禍における避難のありかたを検証し、さらに大雨など自然災害における避難方法を考えていく。	・生徒のアンケートから、生徒の生活はアルバイトに大きく影響されていることがわかる。健康管理能力を身につけてもらいたい。	(1)・全教室にプロジェクターを設置したことにより、オンライン集会が実現でき、密な環境を避けることができた。また、全教室に加湿器を置き、衛生的な管理方法を徹底することで、新型コロナウイルスの感染防止と教育環境の整備を行うことができた。 (2)・緊急事態宣言における臨時休校、授業時間の変更、分散登校、新型コロナウイルス感染に伴う臨時休校など緊急を要する連絡は、マチコミ、学校HP、Googleクラスルーム等により迅速に発信することができた。 ・マチコミに登録していない、Googleクラスルームにつながらない等、家庭におけるインターネット環境等連絡手段がない場合があるなどの課題を残した。 ・DIG研修は昨年度より生徒の参加数が約20人増えた。	(1)新型コロナウイルス感染症防止の徹底と、教室環境の整備に努めていく。 (2)・引き続き、情報を整理し迅速かつ的確に伝達するように努める。 ・安全に関する情報伝達のため、保護者にマチコミへの登録の必要性を呼びかけていく。